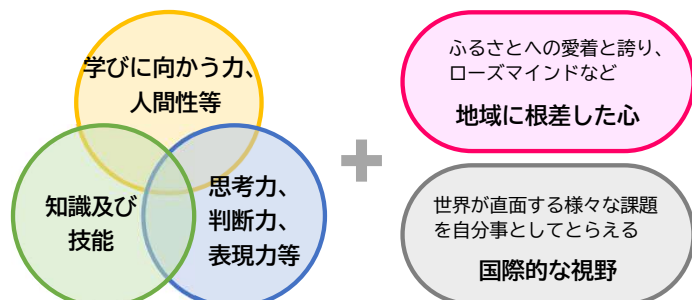


少子化が進み、こどもたちを取り巻く環境や学校の課題がより複雑・多様化する中、「すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現」に向け教育環境の充実を図るため、今後の学校再編や施設整備など、環境整備に係る基本的な考え方と具体的な取組方針を示す「福山市学校教育環境に関する基本方針」を策定しました。

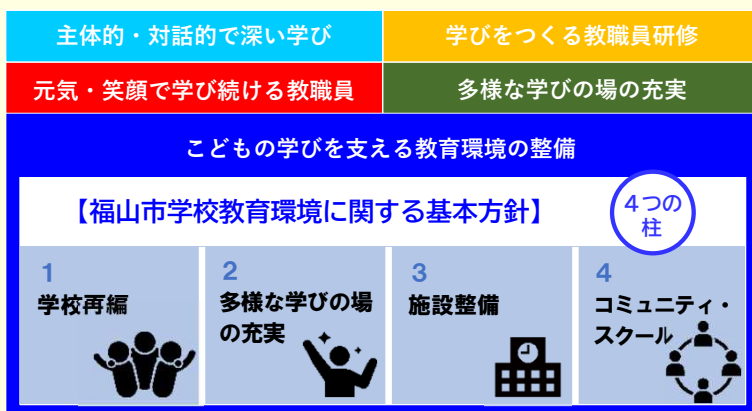
※2015年度(平成27年度)策定の「福山市小中一貫教育と学校教育環境に関する基本方針」を見直し新たに策定

福山市がめざす学校教育

《 育成をめざす3つの資質・能力 》



第三次福山市教育振興基本計画



基本方針 1 学校再編 P.12 (基本方針のページ。以下同じ)



1 これまでの学校再編の取組の成果を踏まえ、学校再編により一定の集団規模の確保を図ります。 P.12

■ 学校再編の必要性

- 学校教育には、こどもたちが多様な人間関係の中で学び合い、育ち合うことのできる環境を整えることが重要です。
- 「主体的・対話的で深い学び」を実装できる教育環境が必要です。

■ 適正規模の基準

	学校の学級数	各学年の学級数
小学校	12～18学級	2～3学級
中学校	9～12学級	3～4学級

☺クラス替え可能 ☺すべての教科担任配置可能

■ 過小規模校の解消

- 複式学級の解消等のため、小学校同士、中学校同士の学校再編を検討します。

■ 大規模校

- 直ちに学校を分離新設する状況にはないため、学校の実態や児童生徒数の推移を注視していきます。

2 学校再編にあたっては、義務教育学校の整備を推進します。 P.14

■ 義務教育学校の整備

- 義務教育学校の特色、本市の2校(鞆の浦学園、想青学園)の取組の成果等を踏まえ、小中一貫教育の効果を高めることのできる義務教育学校の整備を推進します。

■ 適正規模の基準

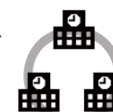
	学校の学級数	各学年の学級数
義務教育学校	18～27学級	2～3学級

■ 学校再編の単位

- 現中学校区を単位とした再編を基本とします。
- 適正規模の基準を
[超えるとき] 中学校区の分割
[満たさないとき] 中学校区の再編(*)を検討します。
(*)隣接中学校区との再編が適当でない場合、当該校区で整備
- 児童生徒数の将来推計や地理的条件等から、効果が高いと認められる場合は、現中学校区の見直しも検討します。

■ 対象校区の条件

- 適正規模の基準に該当し、将来推計においても、児童生徒数が維持できること。
- 校区内の学校の校舎・体育館が老朽化していること。
- 整備に必要な敷地面積が確保できること。
- 児童生徒数の確保など緊急性があり、地理的条件などを総合的に勘案し、整備の必要性が高いこと。



3 学校再編にあたっては、事前の交流事業や通学支援など様々な事項を考慮する中で、保護者・地域住民など関係者との意見交換を重ね、理解を得ながら取組を進めます。 P.18

学校再編の取組と併せ、子どもたちが自分に合った学びを選択できるよう、多様な学びの場の充実に、引き続き取り組みます。

■ 校内・校外フリースクールなど

- 多様な学びの場を充実させ、不登校児童生徒の社会的自立を支援していきます。

■ 特認校

【広瀬学園小・中学校】

大きな集団で学ぶことが難しい子どもたちに、少人数の学級で一人一人のペースを尊重しながら、各教科の基礎基本の確実な習得を図っています。

■ イエナプラン教育校

【常石ともに学園】

対話的、体験的に学ぶ場を組み合わせながら、学力の基盤である言葉と数への理解を深めています。

- 特認校、イエナプラン教育校の教育実践を教職員研修等で共有し、他の学校の実践にも取り入れます。



◀ 本編はこちらからご覧になれます

- 学校再編計画を踏まえる中で、教育環境の向上と老朽化対策を一体的に図る施設整備を進めていきます。

■ 検討の優先順

① 義務教育学校

- 施設一体型の校舎整備を行います。

② 他の公共施設との複合化

- 施設所管部局と連携し、各施設の個別計画や地域の実状などを総合的に勘案します。☺教育効果 ☺効率的な施設整備

③ 長寿命化改修 ※①②以外の学校

- 部位改修を基本に、施設の状況に応じ、長寿命化改修や建替え等を検討し、計画的に整備を行っていきます。

- 子どもたち一人一人の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、新しい時代の学びを具現化する施設整備を行っていきます。

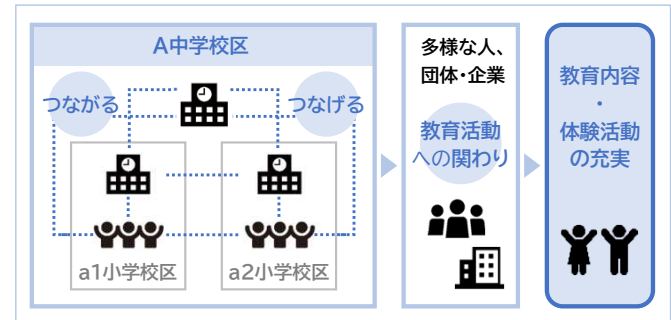
■ 施設整備の考え方

学び	<ul style="list-style-type: none"> 柔軟で創造的な教育活動ができる学習空間 多様な教育的ニーズのある子どもたちの教室 教員間のコミュニケーションスペースの場 	5つの視点 の整備など
生活	<ul style="list-style-type: none"> 体育館への空調整備 老朽トイレの改修 など 	
共創	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールを推進するための活動・交流拠点となる場の整備 	
安全	<ul style="list-style-type: none"> 学校のオープン化と安全性の確保 など 	
環境	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入 など 	

コミュニティ・スクールの仕組みを活かし、全中学校区・学校において「地域とともにある学校づくり」に取り組みます。

■ 福山市のコミュニティ・スクールの在り方

- コミュニティ・スクールを中学校区に導入し、地域と学校、地域間、学校間が「つながる」ことで、多様な人、団体・企業が教育活動に関わり、教育内容や体験活動を充実させていきます。



- 学校が主体的に、地域とともにある学校として運営することを通して、地域の学校への関わりが、理解から協力へ、さらに参画へと膨らみ、地域の教育力によって、子どもたちに求められる資質・能力を育成することをめざします。



- 多くの市民の力で、将来の地域、福山市を支える子どもたちを育てていくことで、地域との絆を強くし、地域を活性化させていきます。